

令和4年度 学校関係者評価書(学力保障 研修部②)

鈴鹿市立明生小学校		NO. 2	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
日本語指導	①「バンドスケール」や「個別の指導計画」をもとに、個人の学力に応じた指導をめざす。 ②国際教室運営会議を学期に1回行う。 ③学力保障や進路等について、家庭と話し合いの場を持つ。	ボランティア支援をするときに、事前と事後の打ち合わせを行うとよい。子に応じた支援が有効にできると考える。	日本語指導が必要な児童については、しっかりと記録を残して引き継ぎをしていき、引き続き個に応じた指導の充実を図る。
	成果と課題(達成状況を含む)		
	①児童の様子を観察しながら記録を残し、個に応じた指導に役立てることができた。 ②国際教室がないため実施できなかった。 ③あゆみ渡し等の機会を活用して、話し合いの場を持つことができた。		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
	成果と課題(達成状況を含む)		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
	成果と課題(達成状況を含む)		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
	成果と課題(達成状況を含む)		